

OCHADAI GAZETTE

お茶の水女子大学学报 第240号 2014年4月4日

OCHADAI GAZETTE April, 2014



社会の期待に応える

CONTENTS

TOPICS

- | | |
|--|---|
| 学長からのメッセージ…………… 1-2
新入生の皆様へ | キャンパス点描…………… 11-12
● “お茶大女性リーダー育成月間”
「今日とちがう明日へ—グローバルリーダー
シップと女性のカー—」
● “食べるだけの国際貢献”
TABLE FOR TWO (TFT) |
| 平成25年度卒業式 …………… 3-4
学長告辞 | メディア報道記録/研究表彰等受賞者一覧/… 13-14
主要行事予定 |
| 学生のアクティビティ…………… 5-6 | |
| 教員紹介…………… 7
● 工藤 和恵先生
(大学院人間文化創成科学研究科自然・応用科学系) | |
| 卒業生紹介 …………… 8
● つつみ 純子さん(家政学部卒) | |
| 附属学校園からのお知らせ…………… 9-10 | |



お茶の水女子大学
Ochanomizu University

学長からのメッセージ

新入生の皆様へ

ご入学を心からお慶び申し上げます。

お茶の水女子大学での勉学を通して新入生の皆様が豊かな才能を開花されますことを期待しています。

「お茶大ではどんな教育をしているのですか」と最近よく質問されます。活躍している女性にお茶大出身者の割合が高いのは何故なのか、その教育の仕方を知りたいというのです。

卒業生の多くが専門を活かし、それぞれの場でリーダーシップを発揮して生涯にわたって積極的に社会と関わっています。女子大学である本学の卒業生が何故そうなのか。理由はいくつか考えられます。

まず、学生の基礎的能力が高いこと、リーダーとなる素養を備えていることです。そして、入学後の学生生活に特色があります。授業は少人数で行われるために発言の機会が多く、そこでは人の意見を聴き自分の意見を精査する訓練が日常的になされます。それ以外にも、学内での活動ではあらゆる業務を学生が担います。そのために、学生には様々な場面でリーダーシップを発揮することが求められます。

こうした学生生活を通して、学生はおのずから自分の意見を持ち、他者の意見を調整しながら目的を達成する訓練をしています。

この環境の基盤をなしているのが教育システムです。

学部の段階では、広く深い教養を身に付けるための新たな教養教育の仕組みと、学生一人ひとりが主体的に専門の学び方を選択できるプログラム制があります。このプログラム制は専門を深める仕組みですが、それによって、隣接分野を学ぶことや学際的に問題を探究する方法などを学生が選択することができます。

大学院においても、専門研究を深化させ高度化させながら、社会の動きを理解し、新たな課題に挑戦する姿勢を大切にしています。

さらに、本学では学生がグローバルに活躍できるように海外留学制度を充実させています。今、グローバルな視点をもってリーダーシップを発揮できる女性の育成は国立の女子大学としての重要な使命です。

本学は来年2015年に創立140周年を迎えます。創立以来私共の大学は常に時代の先駆けとなり社会を担う優れた女性リーダーを多く輩出しつづけてきました。そして今、国立の女子大学の役割はこれまでにないほど重視されています。この役割を担い、社会の期待に応えるべく、学生とともに、本学の新たな歴史を創り上げてまいりたいと思います。

新入生の皆様には、本学の豊かな教育環境を存分に活用して、将来、それぞれの仕方でリーダーシップを発揮するための知と力を習得されますよう期待しています。

2014年 春
学長 羽入 佐和子

学長からのメッセージ
新入生の皆様へ

平成 25 年度卒業式

学長告辞



ご卒業おめでとうございます。

本日ご卒業される皆様、そしてご家族はじめ関係の皆様に、心からお祝い申し上げます。

本学の経営協議会委員の皆様、卒業生の会である桜蔭会の会長、理事の方々、名誉教授の先生方には、ご臨席賜りまして、まことに有難うございます。

ただいま皆様にお渡ししました卒業証書は、お茶の水女子大学で学んだことの、そして、社会で活かせる力の基礎を身に付けたことの証です。

今、日本では、女性の社会的活躍が期待されています。

特にこの大学で専門的知識を身に付けた皆様の役割は、単に社会の一員となることだけではなく、社会を担いリーダーシップを発揮することにもあります。

2020年までに意思決定過程に関与する女性を30%にする、という国の方針がありますが、それは単に、女性の数が30%を占めていればよいということではないはずです。

組織や、社会の在り方を考え、方向を決定する際に、これまでになかった新たな視点を付加し、専門的な見地から、建設的な提案ができる人が求められているのだと私は理解しています。2020年は6年後です。その頃皆様は、それぞれに、何らかの主導的な役割を担う立場にあることと思います。

そうしたときのことを想定して、本学では独自の専門教育制度である「複数プログラム選択履修制度」を開始しています。この制度は、学生一人ひとりが自らの意志で、主体的に専門の学び方を選択し、知識を身につけることが特色です。そして、この専門教育と、お茶大型の「文理融合リベラルアーツ教育」は、学生がそれぞれに、問題意識を高め、視野を広げ、専門性を深めることを目標としています。

これは本学の特色ともなっている教育制度です。いまはま

だ実感がないかもしれませんが、皆様には、おそらく、自分の専門の領域だけではなく、自分とは異なる分野に接する機会がしばしばあったはずですし、それが強みにもなるはずです。この過程を通して、ものの見方が多様にあり、問題設定の仕方も解決方法も多様にあり得ることを理解してきたに違いないからです。

本学のリーダーシップ教育の理念に、「知性」と「しなやかさ」がありますが、それはこのことを意味してもいます。専門的な知識を確実に身に付け、それを活用して、柔軟に、かつ適切に判断できる能力の基盤を皆様は身につけてきたはずです。その力を存分に発揮し、さらに磨きあげていただけるに違いないと信じています。

そして、「知性」と「しなやかさ」に加えてもう一つ、「心遣い」つまり他者を尊重することをリーダーシップ教育の理念としていますが、その重要さを痛感したことがありました。3年前の3月の東日本大震災の時です。

この日、附属学校を含めて数百名がこのキャンパスで夜をすごしました。大学の学生と教職員もこの講堂に避難していましたが、その時、静かに私の話に耳を傾け、指示に従い、刻々と変化する状況に適切に対処し、冷静に行動していた皆様の姿はいまでも忘れられません。

その時私は、この大学の構成員が、他者を気遣い、寛容さを身に付けた人たちであることを実感し、改めてこの大学を誇りに思いました。

この場に立つと、その時の緊張感とともに、いつもそのことを思い出します。

震災後、学内では被災地支援プロジェクトを複数開始し、また被災地の8つの自治体と協定を締結して教育支援を続けています。

卒業生の皆様のなかにもこの活動に参加した人が何人もいることと思います。その報告書には参加した学生の感想が記されていて、被災地の問題は自分たちの身の回りの問題でもあると気づいた、被災した小学生が自分の将来の目標を語る姿から、自分は今何をすべきかを考えさせられた、という記述もありました。

無力さを痛感しつつも、何かしなければと努力した学生の姿が目につかび





ます。また、支援する、というより、むしろ多くのことを学んだという感想も述べられていました。

被災地を訪ねて思うのは、人間がひと莖の草に喩えられ、「人間は自然のうちで最も弱い存在である」(パスカル「パンセ」)と言われるように、人間がこの世界で如何に卑小な存在かということです。

確かに人間は自然の威力の前に屈してしまうときもあります。

ですが、自然を探究し、その謎を解き明かし、そこから新たな環境を作り上げ、文明を築き上げてきたのも人間です。

そして、大学という高等教育研究機関で学ぶ人や、そこに身を置く私たちには、専門的知識を身に付けて、それを駆使し、学問を深め、社会を発展させる原動力となる使命があります。

この時、社会の発展とは何かということが問題になります。社会の発展のためには、科学的な探究と、技術の進歩が必須です。ただし、それだけでは不十分であることを私たちは、大震災とそれに伴う原子力発電所の事故で思い知らされました。

科学の探究は、何ものによっても妨げられてはならないことは自明です。固定した考え方や社会通念にとらわれない探究心が、これまで科学を進歩させ、学問を発展させてきました。そしてさらに科学の基盤の上に、技術が開発され、私たちの生活圏は拡大し、日常生活が便利で豊かになったことは紛れもない事実です。

しかし技術はあくまでも手段にすぎません。問題は、この手段をいかに利用するか、ということです。つまり、何を目的とし、それをどのように利用するか、です。それは人間に課せられた課題です。人間が何を目的と設定し、その目的のために、いかにして手段を利用するか、が重要であり、鍵となるのは人間の判断力です。

次のようにいわれることがあります。

「技術は単に手段であって、それ自体は善でも悪でもない。重要なのは、人間が技術から何を創り出すのか、何の目的で人間は技術を用いるのか、…である。技術に支配されるのではなく、技術を支配する人間とはどのような人間であるのか、…が問題なのである」(ヤスパース「歴史の根源と目標」)

皆様には、この大学で学ばれた知を力として、人間性を磨き、どのような状況にあっても、柔軟に、そして適切に判断する力をいっそう鍛えていただきたいと思います。

時代は今、女性に味方をしてくれています。本学は、来年

2015年に創立140周年を迎えますが、この長い歴史の中で初めてといってもよい状況のように思います。本学の卒業生は、時代がどのようなであっても、さまざまな世界で先駆的な役割を果たしてきました。

日本で初めての女性の博士が学んだのも本学ですし、教育機関を創設した卒業生もいます。なかでも、本学の卒業生の会である桜蔭会が、関東大震災の翌年に桜蔭学園を創設したことは、いまにして思えば驚異ですらあります。

そして今社会は女性の活躍に多くの期待を寄せています。皆様には多くのチャンスが待っているに違いありません。

これまでと大きく異なるのは、グローバルな視点が必要だということです。幸いなことに、本学は文部科学省の「グローバル人材育成推進事業」を全学的に実施する大学に選定され、昨年度からさまざまな取り組みを行っていますので、皆様のなかにも、この事業によって海外経験を積んだ方がいらつしやると思います。

皆様がそれぞれに、チャンスを的確に捉えて、存分に力を発揮してください。ただし、単に女性としてだけではなく、広い視野と確かな専門的知識を身に付け、高い見識をもった一人の人間として、また、本学で学んだことを誇りとして、自らを磨きながら力を発揮してください。力不足と思うようなことがあっても、勇気を出して挑戦してください。それに足だけの素養を身につけてきたことが、学位記には記されています。

皆様がこれからの社会を担い、時代をリードして、豊かな未来を築かれますことを期待しています。

そして、本日ご卒業の480名の一人ひとりの未来が輝かしいものでありますことを心から願っています。

来年の140周年記念の時には、皆様が再びこのキャンパスに集われますことを楽しみに、改めてご卒業を心からお祝い申し上げ、告辞いたします。本日はまことにおめでとうございます。

平成26年3月24日
お茶の水女子大学長
羽入 佐和子



平成25年度卒業式 学長告辞

学生のアクティビティ

お茶の水女子大学の学生は授業以外にも様々な場所で様々な活動をしています。

今回はその中でも、化学科の学生チーム宇宙美(そらみ)の活躍と有志の学生が参加した「冬の学校」の活動を紹介します。

°°..°°°*°°°* 化学科学生チーム宇宙美 *°°°*..°°°*°°°*

昨年11月、化学科の学生チーム宇宙美(そらみ)が宇宙航空研究開発機構(JAXA)主催のコンテスト「第10回航空機による学生無重力実験コンテスト」奨励賞と、第27回日本マイクログラフィティ応用学会(JASMA)毛利ポスターセッション敢闘賞のダブル受賞をしました。このコンテストでは航空機を用いた無重力で行う

実験のテーマを募集していて、選定委員会で選定されたチームが実際に飛行機に搭乗して無重力状態を体験しながら実験を行うことができます。本学のチームがこのコンテストに採択されたのは今回で6回目。実験の計画はもちろん、装置や器具の製作も自分たちで行い、20秒間の微小重力(μ G)を繰り返し体験しながら実験を行った宇宙美のメンバーに様々なお話を伺いました。その中でも印象的な項目をピックアップしてご紹介します。



チーム宇宙美はどのような経緯で結成されたのですか？



化学科が中心になって活動している「環境科学倶楽部」(小学生に面白科学実験を教える活動をしている)のメンバーであった3年生(学年は全て当時)3名と、1年生1名、微小重力実験に興味があった3年生1名で結成されました。化学科の教員で、環境科学倶楽部の顧問でもある森義仁先生がコンテストを紹介していただき参加してみることにになりました。

°°°..°°°°*°°°°* 冬の学校 *°°°°*..°°°°*°°°°*

まだ肌寒さの残る2月。東日本大震災の復興支援の一環として、宮城県気仙沼の学校で学習支援をおこなった。学年、学部、教員養成課程履修の有無に関わらず募集をおこない、最終的に本学の学生35名が参加した。

東京から東北新幹線に乗って2時間半。一ノ関から大船渡線に揺られることさらに1時間半で到着した気仙沼。「海とともに生きる」をスローガンに復興に向けて歩みを進める港町は、只々穏やかで美しい海と、磯の香りで私たちを迎えてくれた。到着初日は、駅からタクシーののって気仙沼の町を案内しても



らった。以前は列車が通っていた「気仙沼」の先に続く大船渡線の線路。地盤沈下した土地に盛り土をする工事現場。建物は「復旧」しても「復興」への道りはまだまだ長い魚市場。震災から3年経っている分、もちろん瓦礫はほとんど無いし、建物も部分的に復旧している。陸に乗り上げた共徳丸は解体されていて、あの時テレビで見た、目で理解できる「被災地」の面影はだいぶなくなっていた。しかし実際に足を運び地元タクシー運転手の話を聞くことで、実際は「3年『も』経っているのに…」という状況であることを肌で感じ、それぞれが言葉にならない思いを抱きながら3日間の学習支援が始まった。

派遣先は気仙沼市内の小学校と中学校。5人1チームに分かれ、日中の授業に先生のアシスタントとして入ったり放課後学習のサポートをしたり部活やクラブ活動に参加したりと支援内容は様々だった。小学校に支援に行った学生からは「小数点や割り算

「泡花の成長」実験テーマはどのようにして決めたのですか？

無重力下でどのような実験をすれば地上との違いが見られるかを考えた時、環境科学倶楽部の活動で知った、洗剤水にドライアイスを加えてカエルの卵のような泡を発生させるという実験を思い出し、泡は面白いテーマだということになりました。地上(1Gの状態)で細長い容器の中で泡を連続的に発生させると細かい泡が棒状になったものが成長する現象が観察できます。この泡は無重力状態ではどう成長するかに焦点を当てて実験計画をたてました。

泡についてはドライアイスが機内持ち込み不可なので、当初はレモン汁と重曹を用いて発生させることを考えていました。しかし、レモン汁と重曹をどのように接触させるかなど、いろいろな問題点があることに気づき、結局砂糖を含む洗剤水と空気が多孔質プラスチックを通過して発生する泡を採用しました。これ以外にも、洗剤水をためておく方法や泡の回収方法、泡の組成など検討することはいくつもあり、問題点が浮上するたびに先生から助言をいただき、メンバーみんなで協力して解決してきました。

飛行機の中、無重力空間はどのような感じのですか。

飛行機内は窓が大きく、実験エリアへ行くまでは景色がすごくきれいで浮き足立った気分だったことを覚えています。いざ初 μ G! 上昇が始まり、だんだんと体に重みがかかり始めました。1minute、30seconds…と椅子に自分が徐々に押し付けられていきました。now!の合図で急激に体が軽くなり、足も手も浮き、シートに座っていたはずなのに、上下がわからなくなり、混乱!とおもいきや、すぐに胃がひっくり返ったような感覚になり、痙攣し始め、動悸が激しくなり始めました。完全に酔いました。約20秒間の μ G期間が終わった瞬間、シートに体が吸い込まれました。次の μ Gまでのインターバルの約3分間で泡を回収し、次回実験の準備をします。吐き気と戦いながらも準備を終え、気を失いそうになる感覚に立ち向かいながらいざ2回目へ。1度目に思いきり酔った恐怖心からか、2minutes to goの合図で再度胃が痙攣し始めました。あと10回近くも μ gがあるのか…と思うと、パラシュートでも良いから、この場から逃げてしまいたい!という衝動に駆られました。そんな中でも実験データだけはとらなければ…と死ぬ思いですべての実験をやり

など、普段当たり前に使っている概念を教えるのがとても難しかった」という感想を聞いた。3日間という短い時間だったにも関わらずそれぞれの学校で生徒たちとの交流を深め、貴重な体験をすることが出来た。また、気仙沼市教育委員会教育長の白幡勝美さんと学校教育課副参事兼指導主任の及川幸彦さんから、気仙沼市の小中学校教育について、震災前から今日までのお話を伺った。たったの3日では絶対に100%理解することはできない。それでも実際に見て、聞いて、生徒たちと時間を過ごし、イメージーションを働かせることで少しでも100%に近づけられるようにと、忙しい中時間



を終え、約2時間ぶりに地上へ降り立った瞬間、重力のある安心感と、終わったという安堵によって涙があふれてきました。すぐに成果報告会があり、泣き顔のまま実験結果を報告しました。しかし昼食でお味噌汁を飲み、落ち着いてくると、だんだんとふわふわとした無重力の楽しさがよみがえり、今回搭乗させていただいて本当に良かったと感謝の気持ちでいっぱいになりました。

JASMA (日本マイクロ重力応用学会)でも発表されたのですよね。

この学会で毛利ポスターセッションに参加しました。物理系の学生が多いという印象でしたが化学や農学の学生もいて、普段話す機会があまりない他分野の学生とも無重力という1つのテーマでつながり、意見を交換することが出来たのは貴重な経験でした。審査員として、宇宙飛行士の古川さんや毛利さんが聞きに来て下さり、発表を聞いていただいただけではなく質疑応答の時間もありがとうございました。また、ポスター発表後にサインを求めると、お忙しいにも関わらず快く応じてくださいました。

微音祭でも「 μ G」という企画を行っていましたよね。

JAXAのコンテストが今年で10周年を迎えたので、お茶大で今までのコンテストの内容を振り返った展示を行うことにしました。内容としては、コンテストのこれまでの歴史、実験内容(その中でお茶大が過去に6回も採択されていることなどをアピール)を展示し、動画で私たちの実験の様子を流したり、また大きなスクリーンを使って、コンテストの宣伝につくられた映像を流すことによって、コンテストの知名度、そして宇宙への親しみを感じてもらうというのが大きな狙いでした。簡単なクイズに答えてもらい、正解者にはステッカーやシールなどをお渡ししました。ステッカーは実際に販売されているものでかなり高い値段で販売されているので、お子さんや大人の方にも好評でした。

宇宙美メンバー
増本優衣 山田有紗 漆原紅 伊勢茜(敬称略)

を割いていただいた。

学習支援のはずが、生徒たちとの交流の中で元気をもらったのは参加した学生の方だった。「先生」と呼んで慕ってくれた生徒達との交流の経験は、学生にとってもかけがえの無い大きな宝物になるだろう。今回お世話になった学校の生徒達にとってもいい思い出になっていることを祈るばかりだ。気仙沼で関

わったすべての人に感謝の意を表したい。そして、今回の「冬の学校」を通して関わることができた小学生・中学生のみんな、進学・進級おめでとう!

学生のアクティビティ

教員紹介

今回は、人間文化創成科学研究科自然・応用科学系准教授の工藤和恵先生をご紹介します。
工藤先生は、大学院では理学専攻情報科学コース、また学部では理学部情報科学科にご所属です。



Kazue Kudo
工藤 和恵

焦らず。急がず。

Q ご出身、ご経歴などについて教えてください

埼玉県飯能市の出身です。フィンランドの童話であるムーミンたちが居たムーミン谷を模した、あけぼの子どもの森公園がある所です。大学は学部から博士後期課程まで本学物理学科、物理科学コースで勉強し、2005年3月に博士の学位を取得しました。その後、大阪市立大学に3年近く日本学術振興会のポスドクとして在籍し、その間にUniversity College Londonに半年ほど滞りました。2008年1月より本学、お茶大アカデミック・プロダクション特任助教になり、2012年4月より本学大学院人間文化創成科学研究科自然・応用科学系准教授に就任しました。好きなことは、プログラミング、サーバ管理やお酒を楽しむことなどです。

Q 先生はお茶大歴が長いですが、外の環境もご経験されてきてお茶大の良さなどについて教えてください

ポスドクの3年間だけ他大学に在籍し、それ以外はずっとお茶大に在籍しています。お茶大では学生と教員たちとの距離が近くて、とてもアットホームな雰囲気が好きです。キャンパスも適度に程よい大きさが人が多すぎず、学生たちがとても穏やかに勉強できていると感じています。そういうものがお茶大生の気質を作っているのだなと思っています。

特に物理や数学の分野では、共学の大学では女子学生の割合は少なく、全体的に女性研究者の割合も非常に少ないのですが、お茶大には身近に女性の友達や先輩、先生方がいるところがいいと思います。身近にロールモデルを見つけられるような環境は、お茶大ならではの良さだと思います。

社会人としてお茶大に戻ってきたのはじめに所属したお茶大アカデミック・プロダクションでは、研究だけに集中する環境を与えてくださり、のびのびと研究することができました。そこでは、生物、化学、情報など異分野の優秀な若手の研究者の方達との交流が多かったので分野における様々な違いなどを勉強することができました。そのことは大変良い経験として自分の研究生生活に役立っています。

Q 先生は物理学科のご出身で現在、情報科学科にご所属されていますが、複数の学科を経験されている感想をお聞かせください

お茶大では二つの学科に所属したことになりましたが、それぞれの学科の学生さんたちもとてもユニークです。学科ごとにそれぞれの気質というものがあると感じているのですが、物理学科の学生さんは自分の興味のあることを突き詰める、ある意味でマニアックな人が多いと感じています。一方、情報科学科の学生さんはいろいろなことに興味を持って、趣味も勉強も両立させるようなバランス感覚がある人が多いと感じています。両方の学科のそれぞれの良さを楽しんでいます。

Q ご専門内容について、また、現在のご研究内容についてご紹介ください

物質のパターン形成について研究しています。これは例えば、ガラスやプラスチックに塗料を塗ると模様のでき方が異なります。このような模様のでき方を、数理モデルを立てて数値計算で解くことによりシミュレーションできるようにすることです。最近、ナノテクノロジーの分野でスピントロニクスという言葉が注目されてきています。これはスピンとエレクトロニクスを合成した造語です。エレクトロニクスは電子

の電荷だけを利用しますが、スピントロニクスは電子のスピンも利用するというあたらしい技術です。例えば私たちは、磁石の模型を基盤にして現象に応じてモデルを構築し、材料の特性を解析しています。その技術が開発されてくると、今取り組んでいる研究が役に立ち新しい材料の開発につながると考えています。2年ほど前から大阪電気通信大学で電子顕微鏡を研究しているグループの研究者の方々と電子顕微鏡でとれる動画像をシミュレーションで再現するという取り組みを行っています。具体的にはLLG (Landau-Lifshitz-Gilbert) 方程式という基礎方程式を使って、磁区パターンをシミュレーションしています。材料の原子の配置や電子状態から原子間の相互作用を分析し、それをシミュレーションに利用して、物質の特性を明らかにしていこうとしています。

また、情報科学科の学生さんと現在一緒にやっていて今後取り組んで行きたいと思っていますものに「時間割問題」というものがあります。時間割を作る問題はグラフの彩色問題に落とすことができます。それぞれの科目を頂点として、同じ時間になってはいけな科目を辺で結んだグラフを考えます。このグラフを彩色するときエネルギーみたいなものを定義してあげると、統計物理学で使われるポッツ模型というモデルの最低エネルギーを求める問題と見なすことができます。見た目は物理の問題ではなさそうで情報科学で解くような問題を物理の手法を使って解こうと思っています。

Q お茶大生に向けてのメッセージ

他大学で男性がいると気負っている女子学生も見かけました。お茶大は女子大なのでそのようなこともなく、自分のペースで勉強することができると思います。

お茶大は居心地がよいのでのんびりしがちなのですが、のんびりしながらも楽しんで勉強して欲しいと思います。焦らず急がず着実に力をつけていける環境がお茶大にはあります。ここで過ごす時間を大事にして、自分を磨いていってください。

文責：小林一郎
(大学院人間文化創成科学研究科
自然・応用科学系教授)

卒業生紹介

ふろしき道 ～日本の心で世界を包む～

Junko Tsutsumi
つつみ 純子

風呂敷に魅せられて

「大江戸オリンピックは風呂敷でおもてなし!」。6年後の東京五輪に向けて、「風呂敷・和文化コンシェルジュ」のつつみさんは講演をいつもこう締めくくる。2011年に国際交流基金から派遣され、ポーランド、グルジア等で風呂敷のレクチャーとワークショップを開催した。その時の現地の高い評価に勇気付けられ「風呂敷は日本の文化や知恵が1枚の布に凝縮された素晴らしいツール」だと再認識した。

つつみさんが風呂敷に興味を抱くようになったのは今から6年前、偶然インターネットで見た画像がきっかけだった。「ワインボトルが風呂敷で包まれているのを見て、なんて可愛いのだろう」と思った。すぐに行動に移す性格のつつみさんは風呂敷屋に直行。日本で最大手の東京支店でギャラリーも併設されていた。その場で弟子入りを志願する。アシスタントとして採用され、頻繁に開かれるイベントを手伝いながら、風呂敷の柄や色、包み方をひとつひとつ覚えていった。「結び方や折り方を変えることで、運ぶ、まとう、隠すなどのさまざまな用途に1枚の布が見事に対応していくさまに驚きを隠せませんでした」。日本が誇る「暮らしに根差した美」を体現する風呂敷文化。のめりこんでいくのに時間はかからなかった。そんななか、リーマンショックが日本経済を直撃する…



風呂敷・和文化コンシェルジュ

1983年お茶の水女子大学家政学部家庭経営学科(現・生活科学部)卒。「日本の伝統文化を身近に再発見する」をキーワードに、風呂敷にとどまらず、「江戸しぐさ」「伝統食育」「しつらい」「年中行事」といったテーマで講座やワークショップを国内外で開いている。広島市出身。本名 太田(旧姓 樋口) 純子

風呂敷講師つつみ純子の和文化研究所

<http://www.furoshikible.com/>



焦らず、慌てず、諦めず

次々とイベントが没になり、つつみさんの仕事もなくなった。けれど、「風呂敷文化を伝えていきたい」という想いは消せない。友人の勧めでブログでの発信を始めることにした。講座開設の報せもフリーペーパーに載せてくれるという。肩書が必要になり、当時はまだ珍しかった「コンシェルジュ」を使って「風呂敷・和文化コンシェルジュ」と名乗ることにした。仕事の名前も本名の「太田」から「つつみ」に改名してスタート。しかし、コメントやメッセージはあっても仕事の依頼は皆無のまま時が過ぎる。1年と2日目、区の教育会館から講座の依頼が舞い込んだ。「嬉しかった! 15名余りの受講者に箱と瓶の包み方を教えました」。単発の仕事を幾つかこなすとまた仕事が途絶える日々。「くじけそうになると仕事がきました」。ブログは開設してから今まで1日も欠かさず更新し続けている。

転機は風呂敷に巡り会って3年目、国際交流基金の仕事だ。準備に数カ月を費やし、日本の歴史や文化を調べ研究した。帰国したつつみさんには新たなビジョンが生まれていた。「風呂敷文化はわかりやすく、ことばもいらぬ。世界の人々に風呂敷を通じて日本の文化とところを伝えたい」。そのためには、まず日本人が風呂敷のすばらしさを再認識することが大切だ。つつみさんはいま、日本各地を回って企業・団体・学校を中心に風呂敷文化の普及に努めている。

今こそ、「温故知新」!

教えること、伝えることは、お茶大卒業後に故郷広島で教職に就いた時から好きだった。いまも都内の高校で家庭科講師を務める。「両立の秘訣は、おもしろい部分を楽しむこと」。高校では食の勉強の課題に「駅弁甲子園」を考案し競わせ



る。和文化講座では、講話だけでなく江戸の町歩きも一緒に楽しむ。そんなつつみさんに最近気がかりなことがあるという。おせち料理を食べたことがない子、調理実習でアイロン台とまな板を間違えて運んでくる子どもがいる。「昔だったら当たりまえのことが日常の暮らしから遠ざかっていく」のが、家庭科という教科を通して皮膚感覚でわかる。つつみさんが、日本の伝統文化を身近に知るひとつとして、風呂敷文化を子どもたちに伝えていきたいと思うのは、こんな体験に危機感を抱くからでもある。

「グローバルな時代、世界に目を広げるのは素晴らしいけれど、その土台に自国のことを改めて見直す機会は大切。日本の伝統文化に触れることで、ゆとりと和らぎが生まれます」。

文責：坪田秀子
(学長特命補佐)

わたしのオフタイム

趣味は読書、サイクリング、テニスと幅広い。着物姿からは想像しにくいが実はかなりのアウトドア派だ。休日はご主人の赴任先の東北温泉巡りとグルメ探訪。

附属学校園からのお知らせ

附属幼稚園便り

大規模改修工事の中で：子どもたちと創り上げた工事中の保育

平成25年度、幼稚園は大規模改修工事を行いました。長い歴史を有し、保育の場として大切に使い続けてきた園舎の復元と補修を主な目的とした工事です。保育と工事が同時進行で行われるという大変な日々でしたが、そこには多くのドラマがあり、かけがえのない経験になりました。その一端を紹介します。



—— チャボの引っ越し チャボ小屋の撤去 ——

雨の中、子どもたちが傘の道を作って、チャボたちを新しい小屋へ連れて行きました。

翌日、永く親しんできたチャボ小屋とお別れ。職人さんたちが手際よく小屋を解体していく様子を、子どもたちの視線は釘づけになりました。

—— 保育室の引っ越し 遊戯室を年長組の保育室に ——

工事中、年長組は遊戯室を保育室にすることになりました。

「保育室から何を持って行く?」と、子どもたちと相談することから始めました。次々に持って行きたいものの名前が上がり、「大事なものをみんな持って行こう!」という気持ちを確かめ合いました。

引っ越し当日、午前中は子どもたちが大活躍。重い段ボール箱や棚を協力して運んだり、絵本棚に絵本を並べたり、力を合わせて取り組んでいました。

午後は引っ越し業者が大活躍。遊戯室が、年長2クラス合同の保育室になりました。広い部屋にいくつものコーナーができてだんだん居心地良くなっていきました。



工事直前

—— 職員室の電話ボックスで遊ぶ ——

職員室には電話ボックスが二つあります。以前は実際に電話をかける場所として利用していましたが、電話は撤去され現在は物入れとして活用しています。

工事のために荷物を全て出しガランとなった職員室。電話ボックスの中に入ることができるチャンスです。

工事直前の数週間、この場所を子どもたちに開放しました。ドアを開けて通り抜けてみたり、電話ボックスを小さな家に見立てて遊んだり、今しかできない遊びを存分に楽しみました。



驚きの連続 思わず見入る



保育室の黒板を外すとその下に黒板が出てきました。その黒板を外すと、さらにもう一つ黒板が！これまで黒板を新しくする度ごとに、上に上にと重ねてきた結果のようです。

子どもたちと一緒に工事中の保育室に入らせてもらい、一番下から出てきた開設当時の黒板にチョークで書いてみました。「これが昔の黒板なんだ」と驚きの声もれました。

工事中はアクシデントの連続です。電気の不具合が生じ原因を調べている電気屋さんの様子をじっとみている子どもたちがいました。

今しか出会えない貴重な体験の連続です。

中も工事中 外も工事中



園舎のまわりには、足場が生まれ保護ネットも張られました。天井が外され、窓が外され、工事は着々と進んでいます。作業内容によっては、幼稚園中が振動するような音が鳴り響くこともありますが、そのような中でも、子どもたちはいつも通りに遊んでいました。砂場では、穴を掘って水を入れてまさに「工事中」です。その向こう側では年中組の保育室の工事が進んでいます。

工事の日々を重ね、平成26年4月、幼稚園はすっかりきれいになり、新しい生活がスタートしています。

附属学校園での出来事 (2014年1月～3月)

【いずみナーサリー】

1月

- 附属高校保育実習
- 避難訓練(火災を想定)

2月

- 保護者向け学習会「子どもの自己肯定感」
- 保育所専門委員会
- 年齢別保護者会

3月

- 親子で遊ぼう会

【附属幼稚園】

1月

- 入園候補者保護者説明会
- 教育実習事前指導
- 避難訓練
- 郊外園大根掘り(5歳)
- 親子で遊ぶ日(3歳)

2月

- 豆まき
- 玄関工事に伴う登降園口変更(4歳・5歳)
- PTA主催講演会
講師:石井クンツ昌子先生
- 遠足(5歳)・年中組保護者対象子育て懇談会
- 2月・3月合同誕生会
- 第2回学校関係者評価委員会・学校評議員会

3月

- 雛まつり
- お楽しみ会(5歳)
- PTA総会・全体保護者会
- 卒業式予行
- 卒業式
- 終業式

【附属小学校】

1月

- 通学班別会(第4回)
- 校外学習(職場体験 5年)
- かがみ会合同委員会

2月

- 校外学習(なかまの活動2年選択)
- 校外学習(職場体験 5年)
- ジャム作り他(なかまの活動2年選択)
- 教育実習指導研究会
- 避難訓練
- アレルギー児童保護者面談
- 第2回入学候補者説明会
- 学校関係者評価委員会・学校評議員会

3月

- 授業参観
- 保護者総会
- かがみ会総会
- 宿泊学習(6年)
- たてわり班活動
- 校外学習(1年、2年、4年、5年)
- 卒業式
- 終業式

【附属中学校】

1月

- 研究授業(短縮時程)
- 特別時間割り期間(～1月28日)
- 総合カリキュラム
- 検定準備・自宅学習

2月

- 一般学級入学検定
- 一般学級合格者発表
- 一般学級入学候補者保護者説明会
- 帰国学級入学検定
- 帰国学級合格発表、入学候補者保護者説明会
- 学校関係者評価・学校評議員会
- 期末テスト

3月

- 保護者会(3年)
- 音楽行事・歓送会
- 郊外園(ジャガイモの植え付け)(2年)
- 卒業式
- 終業式
- 春期休業

【附属高校】

1月

- 保護者会(2年)
- 終講(3年)

2月

- 保護者会(1年)
- 合唱コンクール
- 入学検定
- 合格発表

3月

- 新入生説明会
- 3学期期末考査
- カナダ人女性研究者講演会(1年)
- 卒業生の話を聞く会(2年)
- 農場実習(ジャガイモの植え付け)(1年)
- 答案返却
- 餅つき大会
- 家庭科特別授業
- 卒業式予行
- 歓送会
- 卒業式
- 終業式

附属学校園からのお知らせ



キャンパス点描

“お茶大女性リーダー育成月間”

「今日とちがう明日へーグローバルリーダーシップと女性のカー」

「お茶大女性リーダー育成月間 今日とちがう明日へーグローバルリーダーシップと女性のカー」と題した、3つのシンポジウムを開催しました。

第一弾

平成25年度A-WiLシンポジウム「女性、仕事、リーダーシップーMake a Difference 的生き方の実践ー」

2014年1月21日(火)に、平成25年度A-WiLシンポジウム「女性、仕事、リーダーシップーMake a Difference 的生き方の実践ー」を開催しました。

本シンポジウムの焦点は、女性の意識や内面性、そしてそれらを形成する社会的通念や文化的刷り込み(社会化)です。女性が責任ある地位に就く際に感じる「壁」や困難について、問題意識を共有するため、米フェイスブックCOO(最高執行責任者)のシェリル・サンドバーグ氏によるTED講演「何故女性のリーダーは少ないのか」の上映からスタート。その後、本学卒業生の日経マネー副編集長野村浩子氏をモデレーターに迎え、中正由紀氏(八王子市役所都市戦略部自治推進課課長補佐)、大内まどか氏(鷗友学園女子中学高等学校 教諭・広報部長)、砂屋敷真衣氏(富士フィルム株式会社ライフサイエンス事業部マーケティンググループ マネージャー)、武石恵美子氏(法政大学キャリアデザイン学部教授)の本学卒業・修了生4名のパネリストによるパネルディスカッションを行いました。キャリア形成をする上での「内なる壁」や、その「内なる壁」をどう乗り越えてきたか、「壁」を乗り越える原動力となったものや、リーダーとなって見えてきたこと・次に目指すものについて、討議しました。



その後、今日のシンポジウムのため寄せられた、シェリル・サンドバーグ氏からのメッセージを紹介。「たゆまぬ努力とサポートがあれば、女性は様々な重圧から解放され、誰もが自らの可能性を十全に開花させ、職場と家庭の両方において満足を見出すことができる」「有能な女性が職場にとどまり、リーダー的な存在となるために努力すれば、よりよい、より公正な社会が実現するでしょう」との言葉が会場の参加者に伝えられました。

“食べるだけの国際貢献” TABLE FOR TWO (TFT)

今年最後のお茶大TFTは新メニュー「トマ玉☆雑炊」で食べ納め

2013年12月16日より、食堂マルシェにて、お茶大TFTメニュー「トマ玉☆雑炊」が販売されました。大人気メニュー「トマ玉ラーメン」をアレンジした新メニューは、色鮮やかなトマトのスープにふわふわ卵とピリッとコショウが効いていて、やみつきになるおいしさ。塩分がやや高めなので、スープは全部飲み干さず、写真のような副菜を合わせて摂ると、さらにバランスのよい食事になります。

5日間限定でしたが、連日の人気ぶり!みなさまのご協力により、562食の学校給食をアフリカの子どもたちへ届けることができました。ありがとうございました。



第二弾 平成25年度グローバル女性リーダー特論(応用編)

「グローバル女性リーダーはいかにして成立するか」

2014年2月2日(日)に平成25年度グローバル女性リーダー特論(応用編)「グローバル女性リーダーはいかにして成立するか」を開催しました。



本パネルディスカッションは、2013年12月開講の本学博士課程生及び社会人女性向け「グローバル女性リーダー特論(応用編)」で、「グローバル女性リーダーはいかにして成立するか」というテーマについて、受講生らが課題の分析、議論によって構築した「試案」をパネリストに提示するところからスタートしました。当日は、パネリストとして、ジャーナリストの池上彰氏、JAXA宇宙飛行士の向井千秋氏、イー・ウーマン代表取締役社長の佐々木かをり氏、インターナショナルスクール・オブ・アジア軽井沢代表理事の小林りん氏の4名をお招きし、多様な場でリーダーシップを発揮されている実体験を元に、ダイバーシティやリーダーシップに関する示唆に富む提案・指摘をいただきました。質疑応答では本学学生だけでなく広く一般の方からの質問も寄せられました。

第三弾

Woman's Global Leadership Summit (女性グローバルリーダーシップに関する国際会議)「今日よりも明日の『リーダーシップ』のために —女性グローバルリーダーシップとは—」

2014年2月8日(土) Woman's Global Leadership Summit (女性グローバルリーダーシップに関する国際会議)「今日よりも明日の『リーダーシップ』のために —女性グローバルリーダーシップとは—」を開催しました。

リーダーシップをどう理解すべきか、また、女性の資質への無理解や、リーダー像についての固定観念を変えるにはどうしたらよいか、新しい時代のリーダーシップのあり方について、さらに、大学教育がそう

したリーダーシップを育成するのにどう貢献できるか等を考察するため、すでにグローバルな場でリーダーシップを発揮されている、井川スミス史子氏(考古学・文化人類学者、カナダ・マギル大学名誉教授)、吉高まり氏(三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社クリーン・エネルギー・ファイナンス部主任研究員)、ソニア・ブラシュケ(Sonia Blaschke)氏(ドイツ人ジャーナリスト、東アジア特派員)をお招きし、シンポジウムを開催しました。

トマ玉☆雑炊

期間

2013年12月16日(月曜日)
~12月20日(金曜日)

場所: 食堂マルシェ

値段: 税込399円
(寄付金20円含む)

TABLE FOR TWO (TFT) とは?
世界の約70億人の人口のうち、10億人が飢えに喘ぐ一方で、10億人が肥満など食に起因する生活習慣病に苦しんでいます。この深刻

な食の不均衡を解消するため、2007年の秋に日本で創設されたのがTABLE FOR TWOです。TABLE FOR TWO、直訳すると「二人の食卓」。先進国の私たちと開発途上国の子どもたちが、時間と空間を越え食事を分かち合うというコンセプトです。

TFT公式HP: <http://jp.tablefor2.org/>

お茶大TFTについて

お茶の水女子大学公認サークルOchas インターナショナルチームは、2009年6月からお茶大TFTに取り組んでおります。また歴史は浅いながらも、これまでに15,868食もの給食をアフリカに届けることができました。

【問い合わせ先】

Ochas インターナショナルチーム

Blog: <http://ameblo.jp/ochas-international/>

【文責】網谷有希子

メディア報道記録

メディア報道記録 2013年度(抜粋)

- **2013年4月6日** 朝日新聞
子のスマホ利用にご用心:保護者向け、注意点をネットに公開
坂元章教授
- **2013年4月15日** AERA 4月15日号
変わる大学地図 [第7回] 女子大で育つキャリア力
望月由起特任准教授
- **2013年4月18日** 読売新聞
脱ゆとり 国民は評価
耳塚寛明理事・副学長
- **2013年4月22日** 日本経済新聞
新入生「知」探求の門出:大学トップがエール
羽入佐和子学長
- **2013年4月24日** 読売新聞(夕刊)
4年ぶり 学力テスト全員参加で
耳塚寛明理事・副学長
- **2013年4月25日** 毎日新聞
解釈力・伝達力問う 学力テスト計228万人が参加:完成形にまだ遠く
耳塚寛明理事・副学長
- **2013年4月25日** 産経新聞
水平垂直:学力テスト 揺れる実施・公表方法
耳塚寛明理事・副学長
- **2013年5月10日** 日刊工業新聞
お茶の水女子大 2社の支援受け寄附部門:化粧品成分を研究
室伏さきみ子寄附研究部門教授
- **2013年5月13日・20日** 日刊工業新聞
キラリ☆研究開発 芸術を科学する(前編、後編)
伊藤貴之教授
- **2013年5月23日** 日本経済新聞
キャンパス発 この一品:お茶女のお茶-お茶の水女子大 香り高い健康志向の4品
大学公認サークル「Ochas」
- **2013年5月23日** 日本経済新聞(夕刊)
日系電子版から一きょうのおすめ記事:ライフ 女性も「働き方」より成果が問われる時代へ
永瀬伸子教授
- **2013年6月1日** 読売新聞
最前線:交流促す学生寮次々 シェアハウス型や「国際寮」も
望月由起特任准教授
- **2013年6月1日** 大学Times
グローバル人材育成と大学の動向2-インタビュー:文科省のグローバル人材育成推進事業を受けグローバル人材育成推進センターを設立
世界中で活躍する女性リーダーの育成を加速
- **2013年6月7日** 朝日新聞
広告特集:音大・音楽部の教育力~各大学からのメッセージ~
小坂圭太准教授
- **2013年6月17日・24日** 週刊教育資料
潮流:お茶の水女子大学長 羽入佐和子氏に聞く(上)、(下)
羽入佐和子学長
- **2013年6月28日** 読売新聞
13参院選 身近な課題(上):子育て支援 まず待機児童の解消を
永瀬伸子教授
- **2013年7月1日** 日本教育新聞
現場の学び直しに保育の社会人講座が好評
柳原洋一教授、浜口順子教授
- **2013年7月31日** 日刊工業新聞
拓く(9): 研究者 創業 アミド類の特性に着目
棚谷綾准教授
- **2013年7月31日** 東京新聞
話題の発掘:「リケジョ」の草分け生きた後世に
女性化学者黒田チカ(佐賀市出身)の資料公開へ
- **2013年8月1日** 毎日新聞
くらしナビ 科学: 独創の系譜
女子学生、帝国大学入学100年 受け継がれる強い意志
- **2013年8月2日** 朝日新聞
いじめなくそう 杉並サミット: 時間かかってても効果的
伊藤亜矢子准教授
- **2013年8月2日** 日刊工業新聞
週末は別人: 震災孤児と夏・冬キャンプ
室伏さきみ子寄附研究部門教授
- **2013年8月9日** 日刊工業新聞
博士課程に疾患予防科学コース: 東京医科歯科大・お茶の水女子大が来春
- **2013年8月20日** Between 8-9月号
特別企画「人材育成のしくみとしての学生寮の活用」
現状紹介: 今、なぜ寮教育なのか-社会の要請と大学の課題という視点から-
望月由起特任准教授
- **2013年8月26日** 朝日新聞
全面広告: お茶の水女子大学
女性の力を、もつと世界に。~グローバル女性リーダーが未来を創る~
- **2013年8月26日** 日経産業新聞
進化する大学図書館(5): お茶の水女子大
留学や就職相談の拠点に
鷹野景子副学長
- **2013年8月28日** 読売新聞
学力テスト分析「脱ゆとり」へ 試行錯誤: 見え始めた成果
耳塚寛明理事・副学長
- **2013年8月28日** 朝日新聞
学力向上策 順位の明暗: 07年と13年の変化比較
耳塚寛明理事・副学長
- **2013年8月28日** 朝日新聞
社説: 全国学力調査 ランキングから卒業を
- **2013年9月1日** 日本経済新聞
「リケジョ」増やそう: ソニー、4女子大とイベント
- **2013年9月4日** 岩手日報
「海の世界」関心深く: 東京・お茶の水女子大 山田高で出前授業
千葉和義教授
- **2013年9月7日** 読売新聞(夕刊)
お茶大 4学期制に: 来年度から 国立大初
羽入佐和子学長
- **2013年9月17日** 大学の約束 2013年版
ロールモデルを育て、グローバルな女性リーダーの発信基地となる
羽入佐和子学長、日本テレビ 原聡子(卒業生)、MIGA(多数国間投資保証機関) 本田桂子(卒業生)
- **2013年9月23日** 日刊工業新聞
女性研究者を支援 お茶の水女子大: “特別研究員”を職歴に
- **2013年9月27日** 朝日新聞神奈川版
青春スクロール 母校群像記: 横浜平沼高校(3)
羽入佐和子学長
- **2013年10月9日** 日本経済新聞
従来の教育の効果 証明
耳塚寛明理事・副学長
- **2013年10月9日** 毎日新聞
大人の学力調査 日本トップ: 義務教育、研修が支えた
浜野隆准教授
- **2013年10月10日** 読売新聞(夕刊)
こころ元気塾: めいぐるみ専用ツアー 旅する「分身」に励まされ
井原成男教授
- **2013年10月19日** 佐賀新聞
日本初の女子大生 黒田チカ(佐賀市出身)に脚光
志賀祐紀アカデミック・アシスタント
- **2013年10月21日** 東京新聞他
国連助言組織に黒田玲子氏
東京理科大学教授 黒田玲子(卒業生)
- **2013年10月22日** 朝日新聞
「数字だけ公表しても」 学力調査結果、慎重さ求める意見
耳塚寛明理事・副学長
- **2013年10月26日** 岩手日報
大槌 お茶の水女子大が遠隔授業 吉里吉里小と
貞光千春特任准教授
- **2013年11月1日** 建築ジャーナル
第1218号
特集 空き家を街の社会資産へ生かそう: 福祉と建築の関連法規を見直し空き家の福祉転用を
松田雄二准教授
- **2013年11月6日** 読売新聞
食きほん: 心が残らない炊き込みご飯
香西みどり教授
- **2013年11月11日** 親子で読みたい!
「Global化に挑戦する大学」2014 vol. 2
お茶の水女子大学: 専門分野を主体的に学んだうえでグローバル力を身につけ、世界で活躍する女性リーダーに
羽入佐和子学長
人間文化創成科学研究科 藤木さゆりさん
- **2013年11月13日** 読売新聞
目指せ世界遺産 佐渡の絵巻に熱視線
小風秀雅教授
- **2013年11月15日** 朝日新聞(夕刊)
学校別成績公表承認 学力調査
耳塚寛明理事・副学長
- **2013年11月15日** 日本経済新聞
学力テスト「成績公表に配慮必要」 文科省 専門家会議
耳塚寛明理事・副学長
- **2013年11月16日** 読売新聞
「学テ」学校別成績公表、条件付き了承…文科省
耳塚寛明理事・副学長
- **2013年11月20日** 産経新聞
全国学力・学習状況調査(学力テスト)、結果「公表」の論点は
耳塚寛明理事・副学長
- **2013年11月28日** 読売新聞
教育ルネサンス 土曜日の学び(6): お茶の水女子大学副学長 耳塚寛明さんに聞く
週5日制の功罪検証を
耳塚寛明理事・副学長
- **2013年12月4日** 読売新聞
PISA1位 上海周辺校を底上げ: エリート校 指導法伝授
耳塚寛明理事・副学長
- **2013年12月4日** 日本経済新聞
読解力など持ち直す: 03年低迷で政策転換 習熟度や意欲課題
耳塚寛明理事・副学長
- **2013年12月4日** 毎日新聞
国際学力テスト: 「PISA型学習」浸透 トップ水準回復 意欲は依然低迷
浜野隆准教授
- **2013年12月5日** 朝日新聞
学校別の成績公表、首長ら賛否
耳塚寛明理事・副学長
- **2013年12月6日** 岩手日報
テレビ活用授業 宮古小で実演
- **2013年12月6日** 朝日新聞
海外での危機管理、大学注目
- **2013年12月12日** 毎日新聞
憂楽帳: やさしさ
室伏さきみ子寄附研究部門教授
- **2013年12月13日** 毎日新聞
Listening: 記者の目: 全国学力テスト、学校別結果公表
耳塚寛明理事・副学長
- **2013年12月14日** 日本経済新聞
非常食、味や栄養改善 試作品続々、14日に災害食の学会
森光康次郎教授
- **2013年12月17日** 毎日新聞
特集ワイド: 第1子誕生は離婚の危機! 無神経な夫にイラ立つ妻
菅原ますみ教授
- **2013年12月19日** 日本経済新聞
キャンパス発 この一品: バッグハンガー
お茶の水女子大
- **2013年12月20日** 読売新聞
佐渡の世界遺産候補 旧採鉱施設 崩壊の危機
小風秀雅教授
- **2013年12月22日** 朝日新聞
まなあさ: 世界が舞台 羽ばたこう グローバル人材育成フォーラム
- **2013年12月27日** 朝日新聞
生駒芳子エシカルごころ: 楽しく軽やかに10代、20代が考えるエシカルファッション
藤内ありさ附属高等学校教諭
- **2014年1月1日** 朝日新聞 新年別刷り
第7部(北海道版)
ジンギスカンの冒険: 道民のソウルフード 源流は大正時代の東京?
- **2014年1月13日** 読売新聞
知りたい!: 女性の管理職登用、キャリア形成 企業にも利
永瀬伸子教授
- **2014年1月17日** 朝日新聞
大阪: ハルモニ寺子屋20歳 東大阪「うり・そだん」
徐阿貴非常勤講師
- **2014年1月21日** 読売新聞
佐渡の世界遺産登録 識者に聞く課題
小風秀雅教授
- **2014年1月27日** 毎日新聞
MEMO: 働く女性が後輩にエール
- **2014年1月31日** 東海新報
理科って楽しいなあ: 発電の仕組み学ぶ
大船渡 盛小の6年生 お茶の水女子大が
出前授業
- **2014年2月7日** 日経産業新聞
大学解剖 お茶の水女子大(上)
「上品・知的」だけじゃない: 男女協働時代のリーダー育む、寮で共同生活、調整力磨く
羽入佐和子学長
- **2014年2月7日** 日経産業新聞
大学解剖 咲くか 女子大ルネサンス
- **2014年2月10日** 日経産業新聞
大学解剖 お茶の水女子大(中)
学が情熱、年齢不問 結婚・出産後に研究再開
宮本恵子特任教授
- **2014年2月10日** 朝日新聞
文化の扉: はじめての風水「家相」ブーム、鎖国下で独自に発展
宮内貴久教授
- **2014年2月10日** 毎日新聞
毎日フォーラム あしたの日本へ: 知の市場
会長、お茶の水女子大学教授 増田優氏
増田優教授
- **2014年2月12日** 日経産業新聞
大学解剖 お茶の水女子大(下)
学長羽入佐和子氏: 「男性中心」変える力に
山形県知事吉村美栄子氏: 全国に優秀な女性を
- **2014年2月12日** 日経産業新聞
大学解剖
お茶の水大 柴門ふみ氏に聞く: 「常識壊え」漫画の礎
漫画家、エッセイスト 柴門ふみ(卒業生)
- **2014年2月15日** 岩手日報
宮古: 身近なお菓子も実験材料 児童がテレビ授業体験
露久保美夏特任講師
- **2014年2月21日** 岩手日報
大船渡: 自分の目で見る放射線 綾里中
出前授業
竹下陽子特任講師
- **2014年3月4日** 朝日新聞
新潟: 佐渡金銀山の世界遺産へ推薦書案
「400年超す技術の愛護」
小風秀雅教授
- **2014年3月6日** 読売新聞宮城版
震災3年(下) 教育 心のケア 人手足りず
伊藤亜矢子准教授

TV

- **2013年4月4日** NHK「ニュースウオッチ9」
鷹野景子副学長
- **2013年10月25日** NHK「NEWS WEB」
タブレットで被災地の教育支援
貞光千春特任准教授
- **2013年12月11日** 岩手めんこいテレビ
「mit Super News」
お茶の水女子大が出前授業
- **2013年12月31日** BBC NEWS SCOTLAND
How Auld Lang Syne took over the world
附属高等学校
- **2014年1月30日** 岩手めんこいテレビ
「mit Super News」
大船渡市の小学校で理科の出前授業 電気の仕組み学ぶ
- **2014年2月4日** ARTE JOURNAL
Japon : la lutte contre les inégalités

研究表彰等受賞者一覧 2013年度(抜粋)

(1) 教職員

- **フランス共和国 教育功労章シュワリエ**
大学院人間文化創成科学研究科
室伏さき子寄附研究部門教授
- **平成25年度科学技術分野の文部科学大臣表彰
若手科学者賞**
大学院人間文化創成科学研究科
栗田和正准教授
- **2013年日本建築学会奨励賞**
大学院人間文化創成科学研究科
松田雄二准教授
- **一般社団法人東洋音楽学会 第30回回田
尚雄賞**
大学院人間文化創成科学研究科研究
山寺美紀子研究員
- **21st International Congress on Nutrition
and Integrative Medicine (ICNIM 2013)
Best Poster Award**
寄附研究部門「食と健康」(お茶大アカデ
ミック・プロダクション)
岸本良美寄附研究部門准教授
- **日本食品科学工学会第60回記念大会
第9回若手の会企業賞**
大学院人間文化創成科学研究科研究
簡浦さとみ研究員
- **日本生物物理学会 第2回BIOPHYSICS論文賞**
大学院人間文化創成科学研究科
由良敬教授
- **独立行政法人日本学術振興会
平成25年度科学研究費助成事業審査委員表彰**
大学院人間文化創成科学研究科
小川温子教授
- **秋の叙勲 瑞宝重光章**
篠塚英子名誉教授
- **平成25年度教育者表彰(文部科学大臣表彰)**
附属高等学校 石井朋子副校長
- **福原記念英米文学研究助成基金平成25年度
研究助成**
外国語教育センター
英美由紀講師

(2) 学 生

- **ヤマハ音楽振興会 研究活動支援**
大学院人間発達科学専攻
松崎真実さん

- **一般社団法人情報処理学会第75回全国大会
情報処理学会推奨卒業論文認定**
理学部情報科学科
飯村奈穂さん、西村綾乃さん
- **第27回情報処理学会エンタテインメント
コンピューティング研究会
学生発表賞**
大学院理学専攻
紺家裕子さん
- **第8回日本語教育学会林大記念論文賞**
大学院比較社会文化学専攻
田川麻央さん
- **NICOGRAPH International 2013
ベストショットペーパー賞**
大学院理学専攻
坂本季穂さん
- **EMBO Workshop on Oocyte maturation and
fertilization: Lessons from canonical and
emerging models
ベストポスター賞**
大学院ライフサイエンス専攻
越智洋絵さん
- **マルチメディア、分散、協調とモバイル
(DICOMO2013) シンポジウム
優秀プレゼンテーション賞、優秀論文賞**
大学院理学専攻
長谷川友香さん
優秀プレゼンテーション賞
大学院理学専攻
菱沼直子さん
- **情報処理学会コンシューマ・デバイス &
システム (cds) 研究会学生スマートフォン
アプリコンテスト
優秀アプリケーション賞**
大学院理学専攻
劉維妮さん
- **Certificate of Merit (Student) for International
Conference on Intelligent Automation and
Robotics 2013**
大学院理学専攻
齋藤碧さん
- **International Conference on Cyberworlds
2013
Best Poster Awards (image corp.)**
大学院理学専攻
久保田真季さん
- **インターネットコンファレンス2013 (IC2013)
プレゼンテーション賞**
大学院理学専攻
早川愛さん

- **第20回日本未病システム学会学術総会
優秀演題賞**
大学院ライフサイエンス専攻
上條文夏さん
- **独立行政法人宇宙航空研究開発機構
(JAXA)
第10回航空機による学生無重力実験コン
テスト奨励賞**
理学部化学科学学生チーム 宇宙美 (代表:
増本優衣さん、漆原紅さん、山田有紗さ
ん、伊勢茜さん)
- **第27回日本マイクログラフィティ応用学会
学術講演会 (JASMAC-27)
毛利ポスターセッション最優秀賞**
理学部化学科学学生チーム 宇宙美 (代表:
増本優衣さん、漆原紅さん、山田有紗さ
ん、伊勢茜さん)
- **The 15th International Conference on
Information Integration and Web-based
Applications & Services (iiWAS2013)
iiWAS Best Student Paper Award**
大学院理学専攻
吉國綺乃さん
- **第11回日本機能性食品医学用学会総会
最優秀ポスター賞**
大学院ライフサイエンス専攻
杉原規恵さん
- **第3回 ARG Web インテリジェンスとイン
タラクション研究会 (ARG WI2 研究会)
優秀研究賞**
大学院理学専攻
重松遥さん
学生奨励賞
大学院理学専攻
一瀬詩織さん
- **公益財団法人日本漢字能力検定協会
平成25年度(第8回) 漢検漢字文化研究
奨励賞佳作**
大学院比較社会文化学専攻
石井久美子さん
- **第3回サイエンス・インカレ
サイエンス・インカレ・コンソーシアム奨
励賞 DERUKUI 賞**
理学部生物学科
杉井昭子さん、小山香梨さん、鈴木裕香さん
- **IEEE Pacific Visualization 2014ベス
トポスター賞**
大学院理学専攻
中澤里奈さん、久保田真季さん

- **第16回プログラミングおよびプログラ
ミング言語ワークショップ (PPL2014)
PPL2014 発表賞**
理学部情報科学科
義悠悠さん、石井柚季さん
- **日本化学会英文誌 (Bull. Chem. Soc.
Jpn.) selected paper**
大学院理学専攻
姚嵐さん

(3) 本学出身者

- **日本信報社第15回華人学術賞**
大学院人間文化創成科学研究科人間発達
科学専攻修了
于建明さん
- **内閣府男女共同参画局
平成25年度女性のチャレンジ賞**
文教育学部教育学科心理学専攻(現・人間
社会科学科) 卒業
横田響子さん
- **国連科学諮問委員会(The Scientific Advisory
Board of the UN Secretary-General)委員就任**
理学部化学科卒業
黒田玲子さん

(4) その他

- **公益社団法人日本化学会
第4回化学遺産認定**
[認定化学遺産第019号] 女性化学者のさ
きかけ 黒田チカの天然色素研究関連資料
- **平成25年度国立大学図書館協会賞**
附属図書館Tea Potグループ
- **国連グローバル・コンパクト(UNGC)国連婦
人開発基金(UN Women)共同作成
女性のエンパワーメント原則 (Women's
Empowerment Principles) 支持声明に署名**
- **メンター・ダイヤモンド ベストオブ学園祭
2013大賞・ユニフォーム部門最優秀賞・
Web投票1位**
第64回微音祭

主要行事予定 2014年度

- 4月 2日 TOEFL ITP全学テスト
新入生オリエンテーション(~7日)
- 4月 4日 入学式
- 4月 7日 新入生セミナー(~8日)
- 4月 9日 1学期・前学期授業開始
- 4月 19日 大学院オープンキャンパス
- 4月 29日 通常授業開講
- 5月 14日 名誉教授懇談会
- 5月 31日 ホームカミングデー
開学記念日
- 6月 7日 2学期授業開始
- 6月 14日 高校教員向けオープンキャンパス
- 6月 25日 理学部・生活科学部(人間・環境科学科)
編入学試験(~26日)
- 7月 3日 理学部・生活科学部(人間・環境科学科)
編入学試験合格発表
- 7月 19日 学部オープンキャンパス(~21日)
- 8月 5日 夏期休業開始
- 8月 13日 夏季一斉休業(~15日)
- 8月 21日 博士前期課程8月入試(~22日)
- 8月 29日 博士前期課程8月入試合格発表
- 9月 4日 博士後期課程9月入試

- 9月 12日 博士後期課程9月入試合格発表
- 9月 30日 9月卒業式
夏期休業終了
- 10月 1日 10月入学式
3学期・後学期授業開始
- 10月 2日 AO入試1次合格発表
- 10月 4日 文教育学部・生活科学部編入学1次試験
- 10月 13日 通常授業開講
- 10月 15日 文教育学部・生活科学部編入学1次試験
合格発表
- 10月 18日 AO入試2次試験(~19日)
- 10月 23日 AO入試2次試験合格発表
- 10月 29日 文教育学部・生活科学部編入学2次試験
- 11月 5日 TOEFL ITP全学テスト(休講)
- 11月 6日 文教育学部・生活科学部編入学合格発表
- 11月 8日 微音祭(~9日)
- 11月 21日 永年勤続表彰式
- 11月 24日 通常授業開講
- 11月 28日 奨学金授与式
- 11月 29日 推薦入試等入試(~30日)
創立記念日
- 12月 1日 4学期授業開始

- 12月 11日 推薦入試等合格発表
- 12月 28日 冬期休業開始

2015年

- 1月 4日 冬期休業終了
- 1月 9日 新年賀詞交換会
- 1月 17日 大学入試センター試験(~18日)
- 1月 24日 大学入試センター試験(追試)(~25日)
- 2月 5日 博士前期課程2月入試(~6日)
- 2月 13日 博士前期課程2月入試合格発表
- 2月 25日 学部入試(前期)(~26日)
- 3月 4日 博士後期課程3月入試(~5日)
- 3月 8日 学部入試(前期)合格発表
- 3月 12日 学部入試(後期)
全学送別会
- 3月 16日 博士後期課程3月入試合格発表
- 3月 20日 学部入試(後期)合格発表
- 3月 23日 卒業式
- 3月 31日 永年勤続表彰式

研究表彰等受賞者一覧 / イベントカレンダー



平成25年度卒業式

お茶の水女子大学学报 第240号

▽発行日:2014年4月4日

▽発行:国立大学法人お茶の水女子大学

東京都文京区大塚2-1-1 (〒112-8610)

ご意見・ご感想はこちらまで

学術・情報機構広報チーム

電話 03-5978-5105

FAX 03-5978-5545

E-mail:info@cc.ocha.ac.jp

URL :http://www.ocha.ac.jp/

本誌、お茶の水女子大学学报「GAZETTE」は、
本学ホームページにも掲載していますので、どうぞご覧ください。